

小宮山博仁（著） 『本物の学力が身に付く新聞コラム活用術』 ぎょうせい, 2009年8月（刊）, 175頁

著者	飛鳥井 郁枝
雑誌名	言語メディア教育研究センター年報
号	2018
ページ	129-132
発行年	2019-07-16
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00001718/

小宮山博仁（著）
『本物の学力が身に付く新聞コラム活用術』
ぎょうせい, 2009年8月（刊）, 175頁

神田外語学院非常勤講師 飛鳥井郁枝



要約：本学院で開講されている共通必修科目の「キャリア開発 2II」の授業では、日経新聞を教材として用いている。多角的視点からキャリアの本質を問いただしていくことを目的とし、記事を元にケーススタディやグループワークを行う。また、国際エアライン科の専門科目「時事研究」においても新聞等を補助教材として授業を行っている。本書では、新聞のコラムを活用し「読解力」「仕事力」「生活力」の向上を目的とし、学習場面における様々な活用例を紹介している。就職や進学（編入学や留学など）を見据え、参考になる、新聞を用いた授業の方法や観点について述べていく。

1、本書の概要

新聞のコラムを活用して、PISA型読解力を身に付け、「仕事力」や「生活力」を向上させることが本書の目的である。第1章と第2章では、「今なぜ読解力なのか」を論じている。前章を踏まえ、第3章では、「仕事力」や「生活力」を向上させる読解力は、どのようにすれば身に付くかを述べている。

本書の特徴は、新聞の読み方を指南する実用書の域を超えて、「仕事力」や「生活力」の基になっている「読解力」に着目している点である。OECD(経済開発協力機構)が2000年から始めた国際的学力調査PISAは、「仕事力」や「生活力」を高める働きをする能力を開発することを目的としており、これまでの読解力と区別するために「PISA型読解力」と名付けている。混迷化した社会において、他者と協力して様々な問題を解決していく能力(コンピテンシー)が求められる昨今、一人ひとりが社会の出来事や地球規模の出来事に関心を持ち、知恵を出し合って「仕事」をし「生活」をしていく重要性を著者は強調している。

第3章は実践編となっており、①新聞コラム②キーワード③気をつける言葉と読み方④コラムを読むときのポイント⑤コラムのタイトル例⑥コラムの要約例⑦タイトル例へのコメントと添削例⑧要約へのコメントと添削例⑨コラムに対する意見⑩意見へのコメント⑪発展学習への導き⑫調べ方のヒントという構成となっている。22のコラムを題材に、順を追って網羅的にインプットとアウトプットができるため、教材としての活用も可能な内容である。

2、 授業への応用

筆者は、2018年4月より専門学校神田外語学院の非常勤講師として、共通必修科目「キャリア開発 2II」、国際エアライン科専門科目「時事研究」、英語専攻科必修科目「ビジネスディベロップメント演習」の3科目を担当している。「キャリア開発 2II」では主教材として、「時事研究」では副教材として新聞を用いている。また、「ビジネスディベロップメント演習」においても補助教材として新聞記事を用いることがある。新聞購読数が減少している昨今、学生にとって新聞そのものに触れる機会がほとんどなく、新聞を読むこと自体が「体験学習」となっている。スマートフォンでニュースを読むことが標準行動になっている学生たちの中には、紙媒体で活字を読むことに抵抗感や負担感を感じている者も多い。また、一つの記事を完読することに時間を要し、内容の理解まで到達できない学生も見受けられる。使われている用語の難しさや、新聞記事特有の文章表現に慣れていないことも一因だと思われる。

ここで注目したいのが「コラム」の活用である。新聞社によって、若干の違いはあるが、編集員により比較的平易な言葉で綴られているコラムは、新聞を読みなれていない学生にとっても読みやすい。コラムによっては、丁寧に背景を説明している場合もあり、テーマの理解に役立つ。また、コラムの特徴として、執筆者の意見が添えられていることも多く、その意見に対し、学生自身がどう考えるか思考の訓練として用いることも可能である。大学編入を目指す学生にとっては小論文の試験対策にもなりうる。経済面、政治面、社会面など学生にとって難度が高い記事を読む前に、導入としてコラムを用いることも授業の展開の一つとして検討できるであろう。

3、 シラバス検討

次項に掲載したのは、2019年度2学期の共通必修科目「キャリア開発2II」のシラバスである。第2回から第5回までは、日経新聞を読み、ケーススタディを検討する回である。ここで、第2回や第3回では、コラムを用いて授業を行うことにより、新聞に対する抵抗感や負担感を低め、「自分ごと＝身近な時事」として内容を捉えられるトレーニングが可能ではないかと考える。また、学生が関心を持ちそうな「文化」や「就活関連」などがテーマに挙げられたコラムを意図して選定することも、導入期では重要である。コラムを授業の導入として活用することで、その後の記事読解、教材作成に対する自己効力感を高められるのではと考える。

4、 まとめ

新聞は、時事研究やキャリア関連の授業で教材として用いるだけでなく、その教材を扱えたことにより得られる学生の「自己効力感」にも大きな影響を与えると考える。学生の理解度に応じた新聞の活用について今後も実践と探求を続けていきたい。

了

2018年度 2学期授業シラバス

学年(Year)	科目種	学科・コース(Course Name)	担当教員(Teacher)
2年次	共通必修科目	共通科目	
科目名(Subject)			レベル(Level)
キャリア開発 2II			-
科目コード(Subject Code)	学期(Term)	単位数(Credit)	使用言語(Lang)
1612	2学期	2単位	日本語
科目のねらい(Objective)			
1. 「働くとは」「企業とは」「生きるとは」、日々のニュースをベースにその文脈の裏側にある歴史的、社会的、政治的、経済的、技術的背景を理解し、多角的視点からキャリアの本質を問いただしていく。 2. 協働学習の実践を通じ、コミュニケーション能力の養成に取り組む。			
科目内容(Subject Description)			
1. キャリア開発2での学びを体系化し、自らの言葉でビジネスやキャリアに関して語れるようにする			
成績評価方法(Grading Scheme)		テキスト(Teaching Materials)	備考(Other Info)
出席:50% 課題提出:30% 授業評価:20%		日経新聞 配布プリント	欠席は1回-6点 遅刻は1回-2点
週	日にち曜日	授業内容・学習目標(Teaching Syllabus)	備考(Other Info)
第1回		オリエンテーション	
第2回		日経新聞を読む & ケーススタディ(コミュニケーション)	
第3回		日経新聞を読む & ケーススタディ(経営戦略)	
第4回		日経新聞を読む & ケーススタディ(マーケティング)	
第5回		日経新聞を読む & ケーススタディ(キャリア)	
第6回		教材作り グループ単位で作成	
第7回		<前半> ①グループ授業 ②グループ授業 <後半> ポイントの講義	
第8回		<前半> ③グループ授業 ④グループ授業 <後半> ポイントの講義	
第9回		<前半> ⑤グループ授業 ⑥グループ授業 <後半> ポイントの講義	
第10回		<前半> ①グループ授業 ②グループ授業 <後半> ポイントの講義	
第11回		<前半> ③グループ授業 ④グループ授業 <後半> ポイントの講義	
第12回		<前半> ⑤グループ授業 ⑥グループ授業 <後半> ポイントの講義	
第13回		発表まとめ	
第14回		ビジネスキャリア & 授業アンケート	
第15回		まとめ	